

第3回「早明浦ダム濁水対策新技術検討委員会」審議結果

平成23年1月27日13時30分から、高知プリンスホテル（高知市南宝永町）にて開催いたしました、「第3回 早明浦ダム濁水対策新技術検討委員会」の審議結果につきまして、下記のとおり発表いたします。

1. 第3回委員会審議結果について

第3回委員会（委員長、高知大学大年邦雄教授）では、一次選定された15件の濁水対策技術について最終審議を行い、総合評価を行いました。

<総合評価>

応募技術については、どの技術にもそれぞれの課題があり、現時点では現場適用性が低いと判断された。課題としては、早明浦ダムの貯水池規模に対する適用性、安全性、経済性などがあげられる。ただし、応募技術の一部又はその考え方の一部については、その適用方法や他の手法との組み合わせにより、有効な濁水対策となり得る可能性があるものもいくつかあった。

<有効な濁水対策となる可能性がある考え方の事例>

①貯水池流入部に、みお筋を造成して浸食を抑え、濁りの巻き上げを抑制しようとする考え方

②貯水池の入り江を利用してフェンスで仕切り、そこに温存しておいた清水を洪水後に放流しようとする考え方（清水温存放流）

2. 今後の濁水対策の進め方について

今回は、応募技術をそのまま現地に適用することは見送ることとしましたが、今後は委員会での審議結果を踏まえ、具体的な対策の検討を実施していきたいと考えています。また、凝集剤活用の可能性についても、引き続き検討していきたいと考えています。

平成23年1月27日

問い合わせ先

事務局：国土交通省吉野川ダム統合管理事務所

調査・品質確保課 課長

みなみ 南 あきひろ 昭裕

計画係長

ぞうた 造田 やすもり 康盛

TEL (0883) 72-3000

FAX (0883) 76-0301